

情勢判断

今月の情勢 ～経済・金融の動向～

米国経済・金融

3月13日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、08年12月から据え置く政策金利（史上最低の0～0.25%）を少なくとも14年遅くまで維持する方針とともに、10月3日から実施している長期国債を4,000億ドル買入れる一方で同3年以下の国債を同額売却するという「オペレーション・ツイスト」も継続するとした。また、景気判断で「雇用市場はさらに改善した」との認識を示した。

経済指標をみると、2月の雇用統計は、失業率は8.3%と前月から横ばいであったものの、非農業部門雇用者数が前月比22.7万人と事前予測（ブルームバーグ社調査：21.0万人）を上回って推移するなど、景気の持ち直しの動きが続いている。

国内経済・金融

3月12～13日の日銀金融政策決定会合では、政策金利の誘導目標（0～0.1%）と金融資産等買入（国債や社債、ETF、J-REIT等の金融資産買入れ額30兆円、固定金利方式共通担保オペ35兆円、合計65兆円）の維持を決めた。また、成長基盤強化支援の拡充策として貸付総額を円貨・外貨合わせて3.5兆円から5.5兆円に増額した。

経済指標をみると、1月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は、前月比3.4%と2ヶ月ぶりに増加し、1～3月期見通しでも、前期比2.3%と2四半期ぶりの増加が見込まれている。また、1月の鉱工業生産指数（確報値）も、前月比1.9%と2ヶ月連続で上昇し、製造工業生産予測調査によれば、2～3月もともに同1.7%と上昇が見込まれている。以上のように、日本経済は横ばい圏内ながら回復に向けた動きも見られている。

金利・株価・為替

長期金利（新発10年国債利回り）は、2月上旬までは、投資家の運用難を背景として好調な入札結果が続いたことなどから、0.9%後半でのみ合いとなった。しかし、3月の米FOMCの結果を受けて景気回復期待が高まったことから株高・債券安が進み、3月中旬に1.0%後半まで上昇する場面もあった。2月下旬は債券相場下落への押し目買いもあり、1.0%前半で推移している。

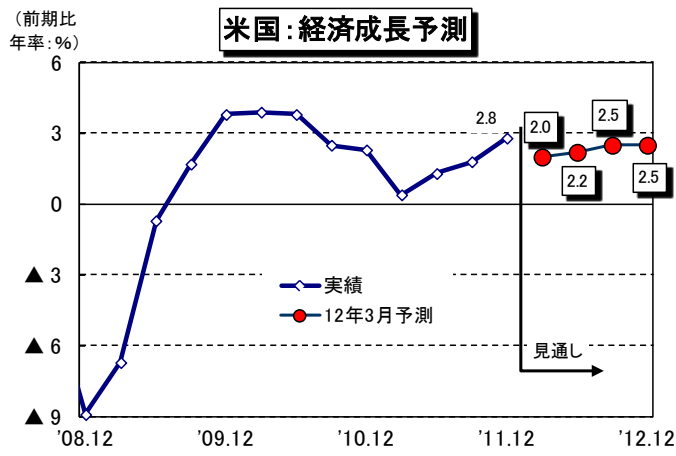
日経平均株価は、欧州不安の後退や円安の進行などを背景として概ね続伸し、3月上旬には約7ヶ月ぶりに10,000円台を回復した。3月中旬以降は、10,100円前後での推移となっている。

外国為替相場のドル円相場は、日銀の追加緩和の継続期待や米国経済の回復期待の高まり、日本の経常収支悪化などを受け、円安が進行した。3月中旬には、日銀政策決定会合で成長基盤強化策が出された一方、米FOMCで景気改善認識が示されるなど、日米の金融政策スタンスの違いが鮮明となり、約11ヶ月ぶりに一時1ドル＝84円台まで円安となった。ユーロ円相場は、3月中旬以降、ギリシャの債務懸念にかかるイベントを順調に消化するなかで概ね円安・ユーロ高方向での推移となり、3月下旬には4ヶ月半ぶりに一時1ユーロ＝110円台となっている。

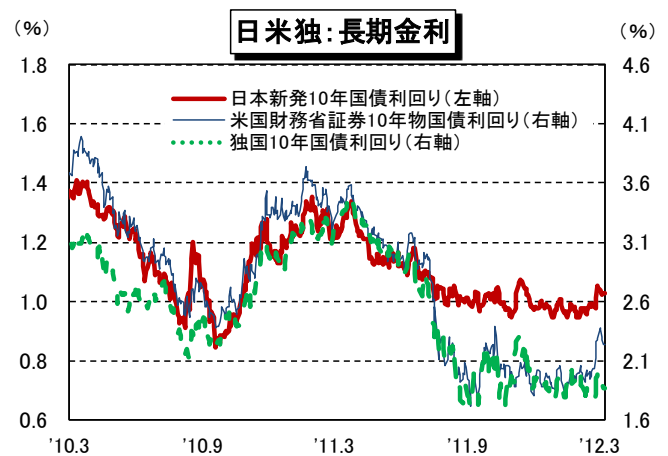
原油相場

原油相場（ニューヨーク原油先物・WTI期近）は、米国経済の回復期待の高まりや根強い中東情勢懸念から、2月下旬に1バレル＝100ドル台半ばまで上昇しており、3月下旬まで同水準で高止まっている。
(2012.3.26現在)

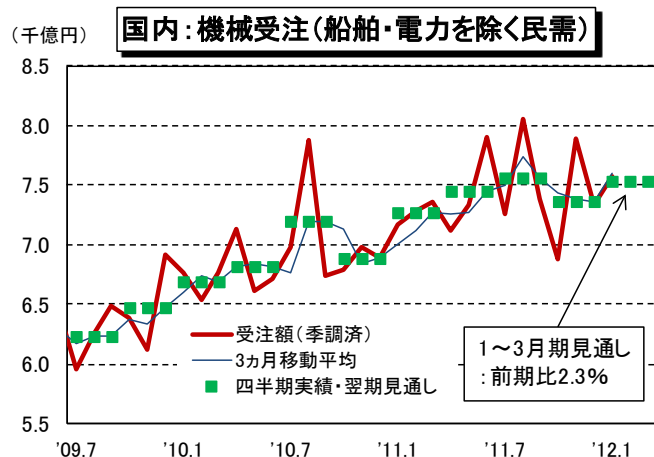
内外の経済・金融グラフ



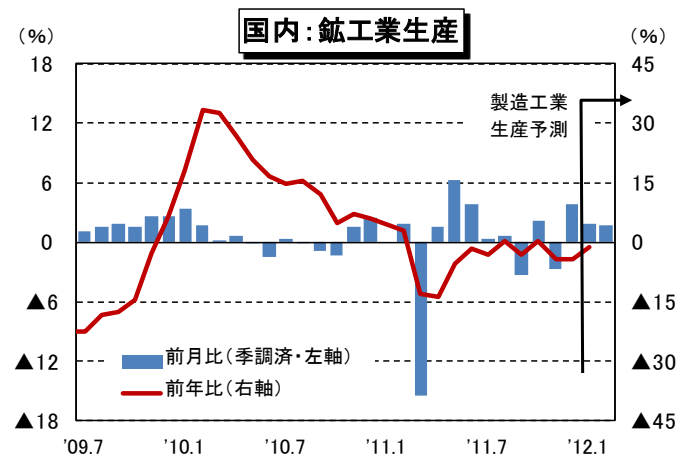
(資料) Bloomberg (米商務省) より作成。見通しはBloomberg社調査



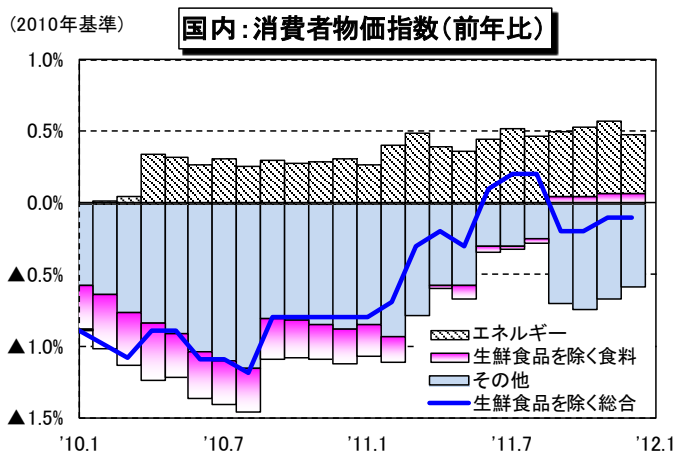
(資料) Bloombergより作成



(資料) Bloomberg (内閣府「機械受注統計」) より作成



(資料) Bloomberg (経済産業省「鉱工業生産」) より作成



(資料) 日経NEEDS-FQ (総務省「消費者物価指数」) より作成



(資料) Bloombergより作成

※ 詳しくは当社ホームページ (<http://www.nochuri.co.jp>) の「今月の経済・金融情勢」へ